

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500081		
法人名	特定非営利活動法人 ラヴィラント		
事業所名	グループホーム バオバブの木		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町富東谷438		
自己評価作成日	平成31年 1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成31年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度も地域の方のおかげで、山菜採りや芋掘りに出かけられたり、お祭り等ほとんどの地域の行事にも参加できました。また地域の方には、昼食会に参加していただいたり、災害訓練を一緒に行った、しめ縄作りをおしえていただきました。
 帰宅願望の強い利用者さんが多いですが、運営推進委員の方を中心に地域の方も利用者さんの様子を理解してくださり、外を歩いていると声をかけてくださったりと地域の方々に支えられて楽しみながら安全、安心な暮らしができています。時には利用者さん同士、心配なことをお互いに聞き合う様子もみられたり、食後の片づけなど、みんなのためになることを日課に生活している方もおられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの一番の特長は、毎月発行している「バオバブねむだより」を富地区全戸に回覧で広報している事により、GHの果たす役割と地域住民の果たす役割を相互が理解し合い、施設と地域の垣根を取り払った関係性が生まれ、強い協力体制が成立している事である。地域の役職の人で構成する運営推進会議の中で話し合われた「一人で歩いている利用者を見かけたら声かけをしてホームに連絡する」等は、これまでに何例も実践されてきた事であり、相互の連携の深さがうかがえる。開設以来5年間積み上げてきた実績を大切にしながら、その中で職員は「利用者を楽しませてあげたい」「安心と安全を守ってあげたい」と、日々創意・工夫を重ねながら頑張っている。この地域に深く根差し、地域と共に歩んでいる地域密着型サービスのモデルのような事業展開をしているホームであり、今後も更なる展開を期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、毎日職員の目に留まるよう、ロッカールーム、ホールに掲示して、日々の実践につなげられるよう努めています。	「人としての尊厳を第一に安心・安全な介護を目指します」の理念を掲示し、個別に年間目標を立てて実践し、評価していく作業を行っている。毎月の職員会議の冒頭で、代表者からの「理念の共有と実践」を包括した訓話が披露されているので職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隔月で保育園と交流したり、山菜採り、お田植祭、ひらめ祭り等に参加させてもらいます。当施設の昼食会には地域の方も参加していただき、その後も訪問があったりしてうれしく思います。	開設当初からの地域行事や各団体等との付き合いは継続されており、家族・地域・職員との昼食会や運営推進会議から発信する地域住民への働きかけによって、相互の絆は深くなっており、ホームはこの地域の福祉活動の拠点になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、身体拘束廃止委員会の際、地域の方にも認知症について知っていただけるよう、主に事例紹介を通して話し合い等を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故、ヒヤリハット、評価等の報告を行い意見をいただき、サービスの向上につながるよう職員で共有します。	町、地域包括、消防署、公民館長、民生・愛育、老人クラブ、区長、地域住民等の参加がある。住民からは「このような施設があっても助かる」「出来る事があれば何でも言って下さい」等の協力的な言葉もあり、有意義な協議がなされている事が記録から確認出来た。	運営推進会議には実に多くの地域の役職者の参加があり、ホーム運営や地域の発展の為に意見交換している。今後はリスクハット・事故報告等も議題にして、参加者の意見を聞き、予防や対応策を話し合ってみるのも良い。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時相談したり、運営推進会議に参加してもらっています。	鏡野町保健福祉課や地域包括とは、運営推進会議の席上で情報交換や意見交換を行い、日頃からの連携が図れている。また、町の担当者とは些細な事でも相談し、助言や指導をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進委員の方にも身体拘束廃止委員に加わっていただき、隔月で会議を開催しています。そこでの話し合いも参考に、職員研修を行います。	身体拘束は一切していない。利用者が一人で外を歩いているところを住民が見つかり、車に乗せようかと思ったという事例に対し、運営推進会議で話し合ったりしていると聞いた。外部研修に参加したり職員間で勉強会をして、身体拘束・虐待・言葉の抑止等に対して共通認識を持っている。	鏡野町は連携の良いところ、利用者が外に出た時には地域の人が声をかけてくれると職員。地元の警察官や老人会等とも情報の共有をし、地域ぐるみでの協力体制がある。今後も安全対策に取り組んで下さい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修も行い虐待のないよう注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられる利用者の方もおられ、後見人の方にお会いする中で勉強させていただいています。外部研修にも参加し理解を持てるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、ご理解いただけるよう努めています。疑問点等があれば、その都度対応するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的に意見を言われる方は少ないので、機会をみつけてこちらから聞くよう心がけています。	毎月発行している笑顔満載の「バオバブだより」を請求書と一緒に送付し、日常の様子をお知らせしているため、家族は利用者の暮らしがよく理解出来ている。昼食会、運営推進会議、意見箱等で広く意見や要望を出せる機会を設けており、日頃の面会時には家族と積極的に話し合うように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング、申し送り、面談の他、普段から意見を聞けるように努めています。意見があれば、代表者と管理者で話し合いを行い対応します。	代表者の家族が運営や介護に従事しているため、日常の細かい意見等も集約され上層部に届きやすい利点がある。職員の発案で竹の筒を使ったそうめん流しを今年度初めて行ったり、冬場の楽しみとして大型ゲームを購入する等、職員から出た意見は様々な形で運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や研修の修了等に応じて昇給を考慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を中心に施設外研修への参加を勧め、学んだことは職員研修等で共有し全員で向上していけるようにと考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内外の研修等への参加を勧め、他施設の方々とも意見交換や交流ができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない利用者の方には特に、ご家族からその都度情報をいただいたり信頼関係が築けるよう生活の様子の観察、傾聴に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、面接の際には、困っている事等お話を詳しく伺います。特に初期は、家族が安心して利用者を預けられるよう配慮して様子を伝えたり情報をいただいたり関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や家族等のお話を伺う中で、当事業所のサービスでよいのか等、協力医等にもアドバイスをいただきながら見極めを行うようにし、他サービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のことでも施設のことでも、掃除や買い物、買い物の片づけ等できることはしていただき、一方的な立場にならないようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんはやはりご家族を求めておられるので、安心できる立場として協力していただきたい思いを伝えお願ひしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に、町内のいろんな場所やイベント等に出かける計画をし、利用者さん同士思い出話をしたりして楽しめるよう考えています。友人等が訪ねてくださると利用者さんもうれしいので、また訪ねていただけるようお願いします。	今年度NPOボラフェスティバルに利用者と初参加した際、久しぶりに近所の人との偶然の再会があり、大変喜ばれたという話を聞いた。また、家族や友人等が気軽に訪問しやすい環境を整えて、馴染みの関係を支援している。	豊かな自然環境に恵まれた四季折々の伝統行事や文化活動に参加し、童心に戻って懐かしみ、楽しんでいるとの事。他所とつながる事でこのような楽しみが増える取り組みを今後も大いに期待している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員に話したり訴えることが日常ですが、時には家族に会いたい思い等を他利用者が親身に聞いてあげている場面もあり、良いことだなと職員は見守るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、機会があれば家族や次施設スタッフ等から様子をお聞きし、必要に応じて支援できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から思いを把握し、馴染みの場所へ出かけることや家族に会うこと等の希望にできる限り添えるよう考えています。家へ帰りたい希望に応えることはなかなか難しいですが、今後もご家族と話していかなければと思います。	全体的に一人ひとりから思いや希望を把握しようとする丁寧な会話が出来ていた。重度化して発語のない人には、アイコンタクトやスキンシップを重ねて心の内を推察し、その思いを共有しようと努めており、本日も利用者の表情が和らぐ瞬間に出会い、日頃取り組んでいるケアのあり方を見る事が出来た。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、契約時に得られた情報だけでなく、普段の会話から得られた情報を大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化に気づいたときには、申し送りやミーティング等で話し合い、伝達ノートに記録して共有し、職員全体で現状把握ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、管理者、介護職員それぞれの立場で、本人や家族や関係者から話を聞き、ミーティング等で共有し合い、介護計画の作成につなげられるようにしています。	本人・家族から聞き取った意向を基にして、日々の介護記録等も参考にしながら、ニーズを掘り起こして支援内容を設定している。ケアプランは職員が共有しやすい内容が望ましく、特に支援内容は個々の状態に合った具体的記述が必要である。	ケアプランの支援内容があまりに簡素過ぎて実践的でなく、職員間で共有し難い。システム上の関係で入力が難しければ、その部分を手書きで補足して書いてはどうか。もっと具体的な記述にして欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より詳しい内容を記録して、形式だった記録にならないよう勉強会も行い努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との通院が無理な場合には職員で対応する等、本人、家族のその時々状況をふまえたサービスを行うよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方がよく協力してくださりととも助かっています。帰宅願望が強く一人で出てしまう利用者さんもおられるので、特に安全面については事業所の協力を聞いていただいたりして心強く思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、事業所の協力医に変更される方が多いですが、それぞれの希望のかかりつけ医が定期的に往診してくださっており、また、必要に応じて受診し、その都度適切な医療を受けられるようにしています。	それぞれの希望のかかりつけ医の定期的な往診があり、受診時には各利用者の「1週間の様子チェック表」を医師に提示している。歯科医師や歯科衛生士から口腔ケアの指導を受け、替え歌に合わせて楽しく口の体操をして「口の中から健康に！」を目指している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格をもった職員が1名勤務しており、心身の状態については指示を仰いでいます。また、週1回の町内の医療機関からの訪問看護で、心身の状態を診ていただき受診や介護につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際にはお互いに情報を共有し、入院中もその都度担当医や相談員さんと連絡を取り合います。入院のない間も関係が途切れないよう連絡を取って関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針、看取り等の考えについて、まず入居の際に説明させていただきご家族にもその時について考えていただけます。終末期が近づいたと判断されたときには、終末期の事業所のあり方等を伝え、ご家族、主治医と話し合い共に支えていけるようにと考えています。	このホームは山間地という地域性もあり、看取りの重要性をしっかりと受け止め、開設以来本人・家族の希望があれば積極的に取り組んでいる。医療機関と職員の連携に加え、家族が終末に立ち会って、人生の最期の時、尊厳を持った良い看取りが出来たという事例を聞いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し、職員に周知徹底しています。救命士さんの指導による救急法講習会を年1回行い、実践力を身につけられるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大雨の災害があり地域でも水が溢れたり道路が崩れたりしました。事業所は避難せずすみましたが、避難方法等の再確認をしました。	消防署員や運営推進委員の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を実施した。その後、利用者の顔写真・身体状況等の開示を求める案について運営推進会議で話し合い、地域の人に避難誘導や避難後の利用者の確認などを手伝ってもらう協力体制が整ったと聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げ、一人ひとりを尊重することを大切にしています。慣れ合いになってしまわないよう今後も気をつけなければいけないところです。	親しい関係であっても、人生の先輩として敬意をもって接するように心がけており、言葉遣いにも気をつけている。一人で頑張って食事をしている人に「わあ、よう頑張ろうな」等と声かけしたり、ゲームの仲間に入れない重度の人と一緒に手遊びする等、どの場面でも一人ひとりを尊重する温かさが十分伝わってきた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、思いや希望を表せない方には選択肢を示し、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等の都合上希望に沿えないときもありますが、お昼寝されたり、ホールで過ごされたり、散歩へ出られたり、と普段はそれぞれの希望やペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に合わせて定期的な声をかけて、地域の理美容室へ行き身だしなみを整えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんが好きなたこ焼きなどをみんなで作るとみなさんとても楽しそうです。毎食前の口腔体操をリードする当番があったり、食事の後の片づけを日課にしている方もおられます。	毎食の食事は病院食作りを長年経験してきた代表者の奥さんが専任で献立表を作っているの、栄養管理はこのホームの「売り」の一つになっている。毎月のクッキングの日は、利用者と一緒におやつや行事食を作って五感を刺激したり、行楽先で利用者の好みの弁当を買って食べる等、食べる事の楽しみを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べられる量やスピード等の状態に合わせて声かけや介助を行います。水分量は必ずチェック表に記入して誰が見てもわかるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で口腔ケアを行います。月に一度、歯科医又は歯科衛生士の口腔指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合ったパンツやパットを使用しており、職員は排泄パターンを把握して時間をみて声かけを行い自立排泄を支援します。	排泄が自立で紙おむつ1名、その他リハビリパンツにパット、という状況の中で、専門職のアドバイスを受けながらそれぞれの人に適したパットを使用し、少しでも快適な暮らしをしてもらえるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や日々の体操、歩行運動で予防に努めていますが、それでも便秘の方もおられ、必要に応じて、看護師が浣腸を行ったりして排泄できるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、9:30～16:30の間で、普段の話から希望の時間帯に声かけする等、できるだけ利用者さんの好きな時間に入浴していただけるよう配慮しています。	週3回入浴を基本としているが、その日の体調や気分によって柔軟な対応をし、拒否のある人には無理強いしない。一対一でコミュニケーションを取りながら入浴し、リビングや居室では出来にくい会話等を引き出しながら、リラックスしてもらえるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの希望やペースによって休息していただいています、できるだけ夜間休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師さんによる勉強会を開き、副作用や用法等について理解を深めることができました。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片付けや洗濯、掃除等を自分たちでしたり、職員の手伝いをしたり、他の利用者さんのお世話をしたりして過ごされている方もおられます。最近、よく室内ゲートボールで楽しんだりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望に沿って、散歩やドライブ等に出かけられるようにしています。地域の方に協力していただいて、希望の山菜採りや芋掘りへ行くこともできています。家族にも協力していただき、時には自宅へ帰ることのできる利用者さんもおられます。	季節ごとに自然の景色を楽しむ外出も多く、山間部特有の楽しみ方を「たより」や「記録」の中に見る事が出来る。また、ホームから散歩範囲内に小学校、公民館等の公共施設や住宅等が集中し、地域住民の温かい見守り体制も整っているため、一人で外出してしまっても危険があれば通報があり、大事に至る事はないと聞いた。	地域主催の作品展に参加する事が出来たのは、今年は歩ける人が多かったので参加出来たと職員から聞いた。元気な人が多い今こそ出来る限り外出する事を計画して、時には積極的に家族にも声かけして協力してもらって下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を紛失される恐れがあるため、原則、持ち込み・所持はお断りしています。必要に応じて、事業所で立て替えて自分たちで買い物等ができるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があるときは、家族の都合を考慮してさせてもらっています。年末には家族や大切な方へ向けて押し花の年賀状を楽しみながら製作しました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まるホールには、利用者さんが作った季節の壁飾りを飾って季節感を感じられるよう定期的に製作を支援しています。毎朝、職員と利用者さんが協力して掃除をして清潔を保っています。	厳冬期や天候が悪くても活動出来るようにと、リビングは広いスペースと採光をいっぱい取り入れた環境作りをしている。平均介護度2.5と軽度の人が多く、リビングは活気があり、サンタのプレゼントだというゲームをしながら「これをしようとする時間が来る」と、応援の掛け声や笑い声が飛び交って賑やかに楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者さんが思い思いに過ごせるようソファや椅子を置き、どこでも自由に過ごせるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、ベッド、洗面台、加湿器が備え付けで、その他の家具等は、本人の馴染みのものや使いやすいものを持ち込んでいただけるよう家族に協力していただいています。	居室は規定より広く設計されており、ゆったりと寛げる空間になっている。思い出の品々を持ち込み、家族の写真や手作りの作品を飾って、自分らしさを表現し、それぞれ落ち着いた居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態に応じて、部屋をわかりやすしたり、共同で使用する場所の空き状況等も自分で判断できるよう工夫しています。		